

横浜環状道路対策連絡協議会
会長 比留間 哲生 様

横浜市栄区長 光田 清隆

「栄区まちづくり行動計画に関する件（回答）」について

貴会より提出された「栄区まちづくり行動計画に関する件（回答）」（平成22年7月8日）も踏まえ、横浜環状南線の必要性や、整備促進に向けた区の行動について、改めて区の方考え方を述べます。

1 横浜環状南線の必要性について

横浜環状道路の整備は、本市の骨格を形成する幹線道路網の整備とともに、市民生活の利便性の向上や経済活動の活性化の観点から、本市の交通ネットワークを担う最重点の計画です。

なかでも横浜環状南線は、圏央道としての機能もあり、横浜港のハブポート化を進める上で、横浜港の整備とともに積極的に進めていかなければならない道路です。

現在本市は、「横浜市基本構想」で示されている都市像「市民力と創造力により『横浜らしさ』を生み出す都市」と、これからの市政の基本となる「5つの方向性」の実現に向け、「横浜市中期計画 平成18～22年度」の次の実施計画となる新たな中期的計画を、平成22年内の策定を目指し、作業を進めているところです。

そして、この計画策定の一環として4月に公表された「新たな中期的計画の方向性」の中で、横浜環状道路については、厳しい財政状況下にあっても、市政の重要課題として取り組んでいくことが示されています。

2 横浜環状南線の整備促進に向けた区の行動について

「栄区まちづくり行動計画」の策定プロセスでは、横浜環状南線の整備について、賛成意見のみならず、計画の廃止や凍結、縮小など多くの反対意見をいただきました。

この結果については、当然のことながら区として真摯に受け止めているとともに、横浜経済の活性化等に向け本市として今後さらに横浜環状南線の整備促進を図っていかねばならない中、区民の皆さんの一層の理解を得られるよう、道路局と連携しながら区としてあらゆる努力をしていく所存です。

具体的には、栄政第126号（平成22年5月25日）の文書に明記したとおり、より多くの区民の皆さんに事業の必要性や現在の進ちょく、今後の予定などの情報について、資料配布や回覧、必要に応じての説明会の開催などにより、継続的な周知、浸透を図り、区民の合意形成を高めていきます。

また、その過程では、客観的なデータの把握という視点も念頭に入れながら行動していくよう、努めていきます。

3 その他

「栄区まちづくり行動計画検討委員会」における自動車専用道路に関する意見の“必要3件”は、「栄区まちづくり行動計画検討委員会でいただいた意見要旨一覧」、9ページの次の意見です。

- ・ 横浜港が韓国などに負けているのは、横浜に入った物流が日本全国に上手く回らない、非常に時間もコストもかかる。それは道路整備、特に横浜はつたない、足りないのではないかと思う。
- ・ 道路整備が足りないままでは、物流関係の車両が生活道路に溢れてくるので、こういった車両をきちんと自動車専用道路に流すようにして活性化と利便性を図ることが必要と思う。
- ・ 以前から考えていることだが、今、栄区に一番必要なものは道路。流通を例にとれば、東京の市場から物を持って来るのに、何時間もかかっていたり、地方から物を持って来るのに何日もかかっているようでは地域の発展を阻害してしまう。商業的観点からは、ほとんどのものがいったん東京市場に集まってから、(栄区も含め)近隣地域に届けられている状況である。環状4号線が重要であるのは当然だが、(栄区から)東京まで1時間以内で行き来出来るような道路が有ってもよいのでは。「通り過ぎる道が必要なのか」ということではなくて、「通り過ぎる道路も必要だし、生活道路である環状4号線も必要」というように考えてもらえたらと思う。

また、前回の文書 栄政第268号(平成22年6月28日)における、「計画発表時に反対していた区民の中には、現在は反対を続けることを疑問視し、行動を見直す動きもあり、一貫して変わっていないわけではないと認識しています」との記載については、区民の方々の日頃の意見交換の中で把握しているものです。

以上